

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」
基盤的研究・人材育成拠点事業 第3期中期計画

1. 大学・機関名／代表者氏名（所属機関・役職）：

大学・機関名：一橋大学
責任者：青島矢一

2. 中期計画期間

令和 3年 4月 1日 ～ 令和 8年 3月 31日

3. 第3期期間（R3～R7年度）において拠点として達成すべき目標・計画

- 一橋大学イノベーションマネジメント・政策プログラム（IMPP）では、研究と実務の双方を理解し、研究、行政、企業等のそれぞれの職分に応じた専門能力を持つ人材の育成を行っている。特に、一橋の博士課程学生と外部の技術系人材を一体的に教育し、経営学・経済学等の社会科学を基盤としつつ、自然科学や工学的な知見も取り込んだ領域横断的なイノベーション研究を担う人材や研究開発マネジメントを担う高度専門人材を育成することを目的とし、活動している。第3期においても、人材育成拠点としての責務に重点をおき、引き続き、この活動を本プログラムの第一の目標に掲げ、活動を継続していく。
- 現在 IMPP は、イノベーション研究センターの専任教員が中心となって履修生たちの研究・論文執筆指導を行っているが、履修生の人数が増える中で、IMPP 特有の学生一人ひとりに向き合った密度の濃い良質な指導を継続していくため、SciREX 事業および IMPP 活動を熟知している若手研究者（ポスドク）を今後も採用し、本プログラムの研究・教育に従事してもらう。
- 第2期中間評価で受けた、事業終了後を見据えた取組みや今後の安定的な事業の継続に関する指摘に対しては、上記に掲げた人材育成目標と並行しつつ、人的体制の維持・強化やプログラムマネジメントに関わる費用の確保、さらには、学内での5研究科横断型で独立した政策関連の教育プログラムとしての定着など、IMPP が自立するために必要となる準備を漸進的に進め、R8年度での自立化を目指す。

4. 事業終了後を見据えた計画

- IMPP が設置している各科目は、現時点ですでに経営管理研究科経営管理専攻研究者養成コースとして正式に登録されており、これは、補助事業終了後においても継続される予定である。
- IMPP の学生は、一橋大学の博士後期課程の学生と、IMPP として独自に受け入れている学生の2タイプがあるが、後者の独自タイプについては一橋大学の科目等履修生制度を利用して受け入れを行っており、事業終了後も継続して独自学生を受け入れることが可能となっている。

- ・ 現在 IMPP を担っているイノベーション研究センターは、経営管理研究科に属してはいるものの、研究科とは独立した独自予算会計となっており、科研費などの外部研究費間接経費も独立して割り当てられるため、間接経費などの割り当ても多く、一定の事務局人員の確保は可能である。このため、教員人権費を除く IMPP 事業の継続に必要な最低限の（人件費）予算は確保できるが、さらに積極的な外部資金の獲得により、IMPP 活動を支える体制の充実を図ることとしている。
- ・ 事業終了後に特に手当てが必要なのは、教育に携わる人材の確保である。現在 IMPP は、イノベーション研究センターの専任教員が中心となって活動を行うことによって深い専門性に裏打ちされた研究・指導を行い、履修生の多岐にわたるバックグラウンドに対応しながら、博士レベルの研究・教育水準を保っている。その結果、本プログラムを修了した学生たちは、社会人・博士課程学生ともに、政策立案や行政を中心としたイノベーション活動に貢献できる高度な人材として、産官学の多様な分野において即戦力として受け入れられ、活躍の場を拡げている。この体制を維持することが IMPP の質を維持するうえで必須といえる。
- ・ このような高い水準を維持していくため、事業終了後も引き続き、当センターの専任教員を中心として IMPP 活動を継続していく。現在 IMPP 予算で雇用している専任教員 1 名に代え、イノベーション研究センター内の専任教員 1 名を IMPP 担当としてアサインするとともに、第 2 期から協力関係を構築した産学官連携研究ポストへの出向職員（文科省・経産省などから定常的に 1 名が着任して研究を進めている）にも IMPP の教育活動を担ってもらうことを計画している。
- ・ また、IMPP の活動においては、若手教員の代表でもある特任助教/講師（ポスドク）も重要な役割を果たしている。これまで IMPP では IMPP 独自のポスドクを 1~3 名雇用していたが、イノベーション研究センターには、その他に常時 1~2 名のポスドクが特任助教または特任講師の形で研究に携わっており、今後は彼らにも IMPP 教育への参加を促す。教育経験の蓄積はポスドク人材の就職活動においても有利に働くため、このような協力関係を構築することは可能である。
- ・ これらの手当てにより、IMPP に参画する教員の数を現状同様に維持することが可能となる予定である。

5. 事業終了以降の科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」への関わり方の展望

- ・ 本事業において一橋大学が果たすべき役割として最も重要なのは、イノベーション政策に経営・経済学的視点を持ち込み、自然科学研究と社会科学研究の一体化を図ることで、イノベーションの活性化を実現する人材を育成することである。
- ・ この自然科学と社会科学の融合は、イノベーション研究センターの設立以来維持されている精神であり、イノベーション研究センターには常に技術系出身の研究者と、経営学系、経済学系出身の研究者が混在し、研究を進めてきている。IMPP は、このイノベーション研究センターに「教育」の機能を追加した画期的プロジェクトであり、イノベーション研究センターとして、この自然科学と社会科学を有機的に連携できる人材の育成は、センタ

一の主要目的として、また経営管理研究科の重要な課題として、今後も位置付けられる。

- ・ 以上の背景のもと、一橋大学イノベーション研究センターでは、社会科学的に裏付けを持つイノベーション政策の立案、運営に関する研究を継続するとともに、これらの研究を実施し、またその研究成果をイノベーション活動で実践できる人材の育成を並行して行い、科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」活動に積極的に貢献していく。社会科学系イノベーション研究とマネジメントレベルのイノベーション教育を連携して実施する国内でも他に例のない貴重な組織として、科学技術イノベーション政策の展開に大きな役割を果たすことを目標としている。
- ・ この目標の実現には、IMPP15年間の人的ネットワークの構築が大きな役割を持つことは間違いない。IMPPの修了生の多くが、大学におけるイノベーション研究・教育や、企業におけるイノベーションマネジメントを行う責任あるポストに着任しつつあり、政府・地方公共団体との連携も様々な形で強化されている。このIMPPネットワークを積極的に活用することで、わが国で他に例を見ない社会科学的イノベーション研究・教育の中心にイノベーション研究センターが位置し続けることとなるだろう。

6. 基盤的研究・人材育成拠点としての個別の目標

(1) 人材育成

IMPPでは、これまでも本学唯一の博士レベルのサーティフィケートプログラムとして、本プログラム履修生を中心に、研究と実務の双方を理解し、研究、行政、企業等のそれぞれの職分に応じた専門能力を持つ下記2つのタイプの人材育成を行ってきた。

第3期期間においても、これらの人材育成を着実に進めていくこととする。

[1] 科学技術イノベーション・システムに関する研究を担う研究者

＝現実の政策形成と企業経営に対して深い理解を持ち、政府の審議会などで広い視野から適切な助言などができる研究者

[2] 公的機関、企業、シンクタンク等の研究開発マネジメントを担う高度な人材

＝自ら分析する能力を持ち、政策と企業経営の双方を理解することで、政府に対する政策的要求や、政策と経営とのリンケージの強化などを実現できるイノベーション経営人材

① 第3期期間における目標（事業終了時点で目指す姿）

第3期期間についても、第2期同様、目標として掲げる2つのイノベーション人材の育成に努めるが、特に、第3期にあっては、入学してくる人材のレベルがますます高度化し、応募人数も増加していることから、毎年の採用人数を可能な範囲で増やし、一人でも多くの人材を育成することを目標とする。

② 目標設定の考え方や論拠

IMPPの活動が学内のみならず、学外でもその知名度を高めるようになり、毎年本コースへの希望者が増大する傾向にある。その応募者も、中央省庁の現役行政官、他大学博士課程在籍・修了者、企業のマネジメントクラスの第一線研究者など、人材的に非常に質の高い人材が集まりつつあり、これらの人材のニーズにこたえる高度な教育指導が必須となっている。このため、IMPPにおける教育体制を充実させることを目的に、人員の強化を行うとと

もに、指導の質を維持できる範囲で、受け入れ学生の数を増やすこととする。

③ KPI（特に内製化・自立化に関するものを含める）

学生受け入れ数（内部＋外部）

第1期 20名

第2期 45名

⇒ 第3期 45名予定

修了者数

第1期 0名

第2期 19名

⇒ 第3期 30名予定

教育教員数（ゼミであるイノベーションリサーチセミナーへの出席指導教員数）

第1期 フルタイム3名・分担7名・ポスドク1名

第2期 フルタイム3名→4名・分担7名・特任2名・ポスドク3名

⇒ 第3期 フルタイム5名・分担4名・ポスドク2名

履修生学会発表数（IMPPが支援したもの）

第2期 65名

⇒ 第3期 65名

実務者による講義数

年5回以上を目指す

IMPPコース外からの講義受講者数

第2期 166名

⇒ 第3期 140名（コロナの状況次第で達成が困難になる可能性がある）

第3期に引き続き継続的に実施するもの

IIR サマースクール

イノベーションフォーラム

④ 事業終了以降の活動方針

・IMPPの設置科目は、既に経営管理研究科経営管理専攻研究者養成コースの一部として、既に学内の正式科目として認められている。特に終了後の移行措置は必要なく、継続が可能である。

・外部入学生については、一橋大学経営管理研究科の科目等履修生規定に従って制定されたルールで運用されており、特に新しい制度を構築してはいないため、継続的に学生を受け入れることが可能となっている。

・イノベーション研究センターは、経営管理研究科から独立した運営予算を持ち、優秀な研究者による外部資金の獲得が多く、豊富な間接経費も有している。本予算の運用に関しては、センター長（現構想責任者）が決裁権者であるため、現在IMPPのために行っている事務処理をイノベーション研究センター予算で処理することが可能となっている。このため、IMPP事務機能についても継続することに大きな問題はない。

・教育活動については、第2期では1名の専任教員、2名の特任教員、そして、（各年）1~3名の専任ポスドクをIMPP予算で手当していた。事業終了後、それらの教員の雇用は難しくなるが、IMPPの教育には、これまでもイノベーション研究センターの教員が全員参加し

ており、さらに経営管理研究科の一部教員も論文指導教員として参加している。このため、IMPP の教育体制全体に対し IMPP 予算に依存する人件費はもともとそれほど大きくない。

- ・事業終了後は、IMPP 予算での雇用者に代えて、イノベーション研究センター内の教官が積極的に IMPP 運営に参加する措置を講じるとともに、現在産学官連携研究ポストとして恒久的に措置されている官・民からの出向者ポストの人材にも IMPP 教育を担当してもらい、産学官イノベーション研究と産学官イノベーション教育の融合を図ることとする。現在 IMPP に関与していないイノベーション研究センターのポストについても IMPP への参加を促し、教育体制の充実を図ることとしている。

(2) 研究・基盤

① 第3期期間における目標（事業終了時点で目指す姿）

- ・イノベーション研究センターは元々研究組織であり、センターのメンバーは高い研究能力を持つ。このため、科学技術イノベーションに関する研究は、これまで通り積極的に実施していくことになる。
- ・前述のように、IMPP のコースでは論文2本の執筆が修了要件となっているため、研究と教育が一体化している。IMPP の学生は、研究テーマとして、SciREX や IMPP に適したテーマを設定するため、IMPP の教育自体が SciREX の研究を促進することに繋がっている。
- ・第3期も、これまで同様、教育側も受講者の側も、教育の一環としての研究を活発に実施する。学生の質も上がっている中で、論文の質も向上しており、学会誌に掲載される論文も増加しつつある。第3期は、論文の質を向上させ、学会査読論文として質の高い研究を推進する。

② 目標設定の考え方や論拠

- ・IMPP の開始にあたり、イノベーション研究センターが新たに追加したのは、「教育システム」であり、これを、イノベーション研究センターが元々有している高い研究能力と合体させ実現させることが、本プログラム参加の重要な目的であった。
- ・このため、当初より修了生の修了要件を、「出版可能なレベルの学術論文2本の執筆」と設定し、イノベーションに資する社会科学的研究能力を有する人材の育成を目標として設定し、これを実現してきた。
- ・また、受講者には、二年目以降毎年学会での研究発表を義務付けており、研究イノベーション学会、組織学会を中心に様々な学会での発表が行われている。
- ・当然のことながら教員の側の研究も積極的に進める。IMPP の支援を受けた研究は、毎年多くの学会で発表されている。(コロナによる学会のオンライン化の影響を受け、第3期に入り発表数が減少しているが、コロナが終焉すれば回復するものと期待している)

③ KPI（特に内製化・自立化に関するものを含める）

履修生学会発表数（IMPP が支援したもの）

第2期 65名

⇒ 第3期目標 65名

修了論文数

第1期 0報

第2期 38報

⇒ 第3期目標 60報

学術雑誌に掲載された論文数

第1期 0報

第2期 10報

⇒ 第3期目標 15報

学会論文賞などの受賞

第3期には、学会論文賞の受賞を目指す

教育側の学術論文・学術誌の受賞

第3期には、教育側の論文・著書等も受賞を目指す

④ 事業終了以降の活動方針

・事業終了後も IMPP の活動は継続する予定であり、修了要件なども変更する計画はない。このため、事業終了後も「政策の科学」に資する研究成果がコンスタントに生み出されることが期待できる。

(3) 共進化

① 第3期期間における目標（事業終了時点で目指す姿）

・ SciREX が全体として推進する共進化に関しては、教育拠点としての本務を基盤として、できる限り積極的に参加していくこととしている。2年ごとに実施されている共進化プロジェクトには、少なくとも1つのプロジェクトに、IMPP 関係者が参加し、積極的に活動することとしており、第3期の初年度は文部科学省科学技術・学術政策研究所が中心となる「博士等に関する情報基盤の充実・強化及び人材政策と大学院教育の改革に向けた事例研究」に、吉岡（小林）徹専任講師が中核的な研究者として参加し、文部科学省内の研究者、そして、人材政策課人材政策推進室の行政官と共同して博士人材に関する政策上の論点に対する定量的なエビデンス・ベースの探究を行う。これに加えて、政策研究大学院大学が中心となる「レジリエントな産学連携とイノベーション・システムのためのエビデンスの収集と分析」にも分担研究者として参画をし、政策研究を行う。これらのプロジェクト終了後は、イノベーション・システムに係るテーマでの政策的な論点に関わるプロジェクト立ち上げを行政官と連携して行う。このプロジェクトは手弁当の勉強会形式で行う他、双方のコミットメントの得られるテーマの場合は科学研究費補助金の申請を行い公式のプロジェクトとして推進することも選択肢とする。

・また、第2期に実施した、重点課題プロジェクトとしての地域イノベーションプロジェクトおよび共進化実現プロジェクトとしての「研究生産性に与える要因とメカニズムの探求のための定量分析：論文生産性を指標とした競争的資金と組織特性の影響分析」のフォローアップ研究を、IMPP 独自のプロジェクトとして引き続き実施する。

・これらのプロジェクト研究に限らず、IMPP の研究成果を積極的に行政に反映するため、IMPP 担当教員が、文部科学省、経済産業省、科学技術振興機構、NEDO、産業技術総合研究所などの研究会、研修に参加し、IMPP における研究成果の普及を行う。

・あわせて、IMPP の OB である行政官や SciREX 事業のネットワーク内の行政官と、政策

課題についての論文レビューや既存政策の体系の整理を行い、その結果を共著論文の形で執筆を進めたり、共同で雑誌の特集を編集するなどする。これにより学術セクターに対して、政策ニーズ起点の研究の可能性について積極的に示すとともに、一般の人々に対してもエビデンスに基づく政策の議論を発信する。

② 目標設定の考え方や論拠

・共進化は研究者と行政、産業界などが一体的に活動し、お互いの強みを提供しつつ弱みを補完することで、双方の能力を高める相互作用を実現することにある。このような活動は、共同研究プロジェクトに限らず、様々な場所での実現が可能である。

・一橋大学では、第2期に重点課題プロジェクトとして「地域イノベーションプロジェクト」を実施、さらに共進化実現プロジェクト（第Ⅰフェーズ）として「研究生産性に与える要因とメカニズムの探求のための定量分析：論文生産性を指標とした競争的資金と組織特性の影響分析」を主体的に実施した。今年度より開始された「共進化実現プロジェクト（第Ⅱフェーズ）」中には、一橋大学イノベーション研究センターとして大きく貢献できるテーマが提案されていなかったこともあり、主体的な参加は見合わせ、研究者が独自に貢献可能な他大学主体のプロジェクトに参加する形とした。第3期中に実施される共進化プロジェクトについても、内容に応じて主体的に取り組むか、研究者として参加するかの形で積極的に貢献していく予定である。

・共進化は、研究プロジェクトでのみ実現するものではなく、様々な形での共進化があり得ることは当然であり、IMPPメンバーの政府・行政活動、産業界の活動への参加は、第3期においても積極的に進めていくこととしている。

③ KPI（特に内製化・自立化に関するものを含める）

共進化プロジェクトへの参加

第3期も、プロジェクト内容に応じて、主体的または研究者が参加する形で共進化プロジェクトに参加する。

政府の委員会や研修への参加

政府の審議会や政府主催の研修での講師など、様々な形で政府の行政部門にIMPPの研究成果を普及する回数を増加させる。

第3期の目標は毎年3回／名の参加を実現する。

地方自治体や政府関係機関での活動

地方自治体や政府関係機関の委員会や研修に貢献する。

第3期の目標は毎年3回／名の参加を実現する。

行政官との論文の共同執筆

学術誌等での学術論文刊行を、第3期を通じて5報以上実現する。

④ 事業終了以降の活動方針に関してそれぞれ記載

・事業終了後も基本的体制や活動を維持し、教員、修了生、現役学生による積極的な共進化を継続する。特に修了生のネットワークが拡大し、政府や関係機関への就職者も増加するため、共進化における主要な活動主体となることが期待できる。

(4) ネットワーキング

① 第3期期間における目標（事業終了時点で目指す姿）

- ・ ネットワーキングについては、これまで最も遅れていた分野であり、第2期までは教育関係のネットワーク構築にとどまる活動が中心となっていた。
- ・ 第3期では、IMPP フレンズ（OB 会）の活動が本格化することもあり、ネットワーキングについても大きく改題できる可能性がある。このため、基本的には、これまで行ってきた活動を継続する。
- ・ 履修生は1年次での「SciREX サマーキャンプ」参加を必須とし、政策立案等共通のテーマでの討論、成果の共有等の場や機会を得る場として SciREX サマーキャンプを活用してきた。第3期においても同様に、IMPP1年次において SciREX サマーキャンプ参加を必須とする。
- ・ 本プログラムの教員は、SciREX 主催のオープンフォーラムに参加し、企画セッションでの講義等、積極的に本事業に係わるとともに、学生には、SciREX 主催のイベントへの積極的な参加を促していく。
- ・ IMPP 実施科目に、他拠点教員をゲスト講師として迎えるなど、拠点間の連携をより深めていくことで、他拠点の強みである分野についても、IMPP 履修生が触れる機会を増やし、また、本事業全体にわたる人的ネットワークにも繋がるよう努める。
- ・ 学生や修了生が、国内外の研究者と交流できる機会を提供するため、IIR サマースクールを開催する。
- ・ 本プログラム修了後も本プログラムの教職員や在籍生との人的ネットワークを形成できるように、IMPP フレンズ（OB 会）の運営を引き続きサポートしていく。

② 目標設定の考え方や論拠

- ・ ネットワーキングにおいて重要なことは、定常的な教育・研究活動の枠を超えて、新たな出会いや関係構築の場を意識的に設計していくことであると考えている。それゆえ、第1期から行ってきた外部との様々なやりとりを充実させるとともに、第2期に設立された IMPP フレンズ（OB 会）を介して卒業生がもつ多様な社会ネットワークをつないでいくことが重要であると考えている。

③ KPI（特に内製化・自立化に関するものを含める）

- ・ サマーキャンプへの参加人数 各年度1年生（8名）+ IMPP 教職員（6名程度）
- ・ オープンフォーラム出講数 各フォーラム1~2講程度
- ・ 講義への外部講師の招聘者数 各年度10名程度
- ・ サマースクール参会者数 各年度60名程度
- ・ IMPP フレンズ構成員数 現在73名⇒第3期終了時点100名

④ 事業終了以降の活動方針

- ・ 事業終了後も IMPP の活動は継続するので、上記のネットワーキング活動は継続的に実施する計画である。
- ・ 今後、各分野で主要ポストに就くことが期待される修了生が増えるのにしたがって、さらにネットワーキングの価値を高めていくことを目指す。

7. 年度計画及び達成目標

R3 年度	年度計画	<p>(1) 人材育成 定常的な活動に加え、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在契約している特許・企業財務等のデータベースにつき、学生・教職員にアンケート調査を行い、利用者のニーズに合ったデータベースを適正数揃えるよう見直しを行う。 ・ 若手研究者による研究・論文指導の充実、セミナーなどの実施。 ・ 学生や修了生が国内外の研究者と交流する機会を提供するため、イノベーションサマースクールを開催する。 ・ IMPP の研究・教育に携わる教員達における国内外のイノベーション事例の調査・研究を実施する。 ・ アフターコロナの教育・研究環境整備として、IMPP でのカリキュラムを全てハイブリッド形式（対面・オンライン）で実施できるよう整備する。 <p>(2) 研究・基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イノベーション研究センター所属の教員および（IMPP 若手研究者を含む）研究者による科学技術イノベーションに関する研究の実施。 ・ IMPP 受講生による、SciREX や IMPP に適した研究テーマの研究・論文執筆／教員達による IMPP 受講生への研究・論文指導。 ・ IMPP 受講生による査読付き学会論文への積極的な投稿／受講生の学会査読論文投稿への支援。 <p>(3) 共進化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共進化実現プロジェクト（第Ⅰフェーズ）の独自のフォローアップを進め、ポリシープロポーザルを含む学術論文として発信を行う。 ・ 共進化実現プログラム（第Ⅱフェーズ）を進め、政策のための科学的エビデンスの取得に努めるだけでなく、ポリシーレポート、および、学術論文としての発信を行う。 ・ 第Ⅲフェーズの共進化実現プログラムを見据え、行政官や行政内の研究機関（NISTEP 等）と連携してイノベーション・システムに係るプロジェクトの企画を行う。 ・ IMPP の成果普及のため、政府が開催する研究会、研修に参画するほか、地方自治体や政府関係機関の審議会、委員会に貢献する。 ・ 行政官との共進化、および、学術セクターに対する発信の一貫として、IMPP 修了生を含む現役行政官との共著論文の執筆を行う。また、共同で雑誌の特集を編集する。 ・ 自立化後を見据えた産学連携の一環として、修了生の所属企業とのコラボレーションを進め、イノベーション政策の受け手たる産業界の政策ニーズについての知見を深める。
-------	------	---

	<p>(4) ネットワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> • SciREX サマーキャンプの共同幹事として、全体テーマの策定から、キャンプ全体の企画・運営等に向けサポートする。 • IMPP 1年生は、SciREX サマーキャンプへの参加を必須とする。 • SciREX 主催のオープンフォーラムに参加し、IMPP 教員は、企画セッションでの講義等に積極的に係わりとともに、学生には、SciREX 主催のイベントへの積極的参加を促していく。 • IMPP 実施科目において、他拠点教員をゲスト講師として迎える。 • OB 会の継続的ネットワーク構築に向けたプラットフォームの準備。
達成目標	<p>(1) 人材育成</p> <p>定常的な活動に加え、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現在契約している特許・企業財務等のデータベースの見直しを実施 • 若手研究者による研究・論文指導の充実、セミナーなどの実施 • イノベーションサマースクールを開催 • 国内外のイノベーション事例の調査・研究を実施 • ハイブリッド形式（対面・オンライン）に適した環境の整備 <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学生受入数（内部+外部）：9名程度 • 修了者数：6名程度 • 履修生学会発表数（IMPP が支援したもの）：計 5 回 • 実務者による講義数：5 回 • IMPP コース外からの講義受講者数： 20 名 • イノベーションフォーラムの開催 • 国内外のイノベーション事例調査の実施 • 若手研究者（ポスドク）を含む IMPP 関係者による「政策の科学に資する機関へのポスト獲得 <p>(2) 研究・基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> • イノベーション研究センター所属の教員および（IMPP 若手研究者を含む）研究者による科学技術イノベーションに関する研究の実施。 • IMPP 受講生による、SciREX や IMPP に適した研究テーマの研究・論文執筆／教員達による IMPP 受講生への研究・論文指導。 • IMPP 受講生による査読付き学会論文への積極的な投稿／受講生の学会査読論文投稿への支援。 <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 履修生学会発表数（IMPP が支援したもの）：計 5 回 • 修了論文数：12 報

		<ul style="list-style-type: none"> ・学会雑誌に掲載された論文数（IMPP受講生のみ）：2報 ・学会雑誌に掲載された論文数（教育側）：3報 ・学術論文・学術誌の受賞（教育側含む） <p>（3）共進化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共進化実現プロジェクトの成果をポリシープロポーザル、学術論文等として発信する。 ・政府の研究会・研修での講師を務める。 ・地方自治体、政府関係機関の審議会、委員会に参画する。 ・行政官との学術論文の共著を行う。 <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポリシープロポーザル：1件 ・政府研究会・研修講師：3回 ・地方自治体、政府関係機関への関与：3回 ・政策研究に係る学術論文：3報（共進化2報、行政官との共著1報） <p>（4）ネットワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SciREX サマーキャンプの共同幹事を行う。 ・IMPP 1年生の SciREX サマーキャンプへの参加。 ・SciREX 主催のオープンフォーラムに参加し、IMPP 教員は、企画セッションでの講義等に積極的に係わるとともに、学生には、SciREX 主催のイベントへの積極的参加を促していく。 ・IMPP 実施科目において、他拠点教員をゲスト講師として迎える。 ・OB会の継続的ネットワーク構築に向けたプラットフォームの準備を行う。 <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SciREX サマーキャンプ参加者：学生9名 教職員6名 ・オープンフォーラムでの企画セッション講師：1回 ・他拠点教員による講義：1回 ・OB会のプラットフォーム構築
R4年度	年度計画	<p>（1）人材育成</p> <p>定常的な活動に加え、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手研究者による研究・論文指導の充実、セミナーなどの実施 ・学生や修了生が国内外の研究者と交流する機会を提供するため、イノベーションサマースクールを開催 ・IMPPの研究・教育に携わる教員達における国内外のイノベーション事例の調査・研究を実施

		<p>(2) 研究・基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イノベーション研究センター所属の教員および (IMPP 若手研究者を含む) 研究者による科学技術イノベーションに関する研究の実施。 ・ IMPP 受講生による、SciREX や IMPP に適した研究テーマの研究・論文執筆/教員達による IMPP 受講生への研究・論文指導。 ・ IMPP 受講生による査読付き学会論文への積極的な投稿/受講生の学会査読論文投稿への支援。 <p>(3) 共進化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共進化実現プロジェクト (第 I フェーズ、第 II フェーズ) の独自のフォローアップを行い、ポリシープロポーザルを含む学術論文として発信を行う。 ・ 第 III フェーズの共進化実現プログラムを実施し、行政官と連携のもと、政策ニーズを踏まえた学術的研究を進める。 ・ IMPP の成果普及のため、行政が開催する研究会、研修に参画する。 ・ 行政官との共進化、および、学術セクターに対する発信の一貫として、IMPP 修了生を含む現役行政官との共著論文の執筆を行う。 ・ 自立化後を見据えた産学連携の一環として、修了生の所属企業とのコラボレーションを進め、イノベーション政策の受け手たる産業界の政策ニーズについての知見を深める。 <p>(4) ネットワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IMPP 1 年生は、SciREX サマーキャンプへの参加を必須とする。 ・ SciREX 主催のオープンフォーラムに参加し、IMPP 教員は、企画セッションでの講義等に積極的に係わりとともに、学生には、SciREX 主催のイベントへの積極的参加を促していく。 ・ IMPP 実施科目において、他拠点教員をゲスト講師として迎える。 ・ OB 会のイベント (講演会・親睦会等) を企画・運営する。
	達成目標	<p>(1) 人材育成</p> <p>定常的な活動に加え、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若手研究者による研究・論文指導の充実、セミナーなどの実施 ・ イノベーションサマースクールを開催 ・ 国内外のイノベーション事例の調査・研究を実施 <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生受入数 (内部+外部) : 9 名程度 ・ 修了者数 : 6 名程度 ・ 履修生学会発表数 (IMPP が支援したもの) : 計 15 回

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 実務者による講義数：5回 ・ IMPP コース外からの講義受講者数：30名 ・ イノベーションフォーラムの開催 ・ 国内外のイノベーション事例調査の実施 ・ 若手研究者（ポスドク）を含む IMPP 関係者による「政策の科学に資する機関へのポスト獲得
		<p>(2) 研究・基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イノベーション研究センター所属の教員および（IMPP 若手研究者を含む）研究者による科学技術イノベーションに関する研究の実施。 ・ IMPP 受講生による、SciREX や IMPP に適した研究テーマの研究・論文執筆／教員達による IMPP 受講生への研究・論文指導 ・ IMPP 受講生による査読付き学会論文への積極的な投稿／受講生の学会査読論文投稿への支援。 <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 履修生学会発表数（IMPP が支援したもの）：計 15 回 ・ 修了論文数：12 報 ・ 学会雑誌に掲載された論文数（IMPP 受講生のみ）：2 報 ・ 学会雑誌に掲載された論文数（教育側）：3 報 ・ 学術論文・学術誌の受賞（教育側含む）
		<p>(3) 共進化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共進化実現プロジェクトの成果をポリシープロポーザル、学術論文等として発信する。 ・ 政府の研究会・研修での講師を務める。 ・ 地方自治体、政府関係機関の審議会、委員会に参画する。 ・ 行政官、産業界関係者との間で政策に係る学術論文の共著を行う。 <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポリシープロポーザル：1 件 ・ 政府研究会・研修講師：3 回 ・ 地方自治体、政府関係機関への関与：3 回 ・ 政策研究に係る学術論文：4 報（共進化 2 報、行政官との共著 1 報、産学連携 1 報）
		<p>(4) ネットワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IMPP 1 年生は、SciREX サマーキャンプへの参加を必須とする。 ・ SciREX 主催のオープンフォーラムに参加し、IMPP 教員は、企画セッションでの講義等に積極的に係わるとともに、学生には、SciREX 主催のイベントへの積極的参加を促していく。 ・ IMPP 実施科目において、他拠点教員をゲスト講師として迎え

		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> OB会のイベント（講演会・親睦会等）を企画・運営する。 <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> SciREX サマーキャンプ参加者：学生 8 名 教職員 6 名 オープンフォーラムでの企画セッション講師：1 回 他拠点教員による講義：1 回 OB会のイベント：1 回
R5 年度	年度計画	<p>(1) 人材育成</p> <p>定常的な活動に加え、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 若手研究者による研究・論文指導の充実、セミナーなどの実施 学生や修了生が国内外の研究者と交流する機会を提供するため、イノベーションサマースクールを開催 IMPP の研究・教育に携わる教員達における国内外のイノベーション事例の調査・研究の実施 データベース使用状況の確認アンケートと見直しの実施
		<p>(2) 研究・基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> イノベーション研究センター所属の教員および（IMPP 若手研究者を含む）研究者による科学技術イノベーションに関する研究の実施。 IMPP 受講生による、SciREX や IMPP に適した研究テーマの研究・論文執筆／教員達による IMPP 受講生への研究・論文指導。 IMPP 受講生による査読付き学会論文への積極的な投稿／受講生の学会査読論文投稿への支援。
		<p>(3) 共進化</p> <ul style="list-style-type: none"> 共進化実現プロジェクト（第Ⅱフェーズ）の独自のフォローアップを行い、ポリシープロポーザルを含む学術論文として発信を行う。 第Ⅲフェーズの共進化実現プログラムを実施し、行政官と連携のもと、政策ニーズを踏まえた学術的研究を進める。 IMPP の成果普及のため、行政が開催する研究会、研修に参画する。 行政官との共進化、および、学術セクターに対する発信の一貫として、IMPP 修了生を含む現役行政官との共著論文の執筆を行う。 自立化後を見据えた産学連携の一環として、修了生の所属企業とのコラボレーションを進め、イノベーション政策の受け手たる産業界の政策ニーズについての知見を深める。

	<p>(4) ネットワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IMPP 1 年生は、SciREX サマーキャンプへの参加を必須とする。 ・ SciREX 主催のオープンフォーラムに参加し、IMPP 教員は、企画セッションでの講義等に積極的に係わるとともに、学生には、SciREX 主催のイベントへの積極的参加を促していく。 ・ IMPP 実施科目において、他拠点教員をゲスト講師として迎える。 ・ OB 会のイベント（講演会・親睦会等）を企画・運営する。
達成目標	<p>(1) 人材育成</p> <p>定常的な活動に加え、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若手研究者による研究・論文指導の充実、セミナーなどの実施 ・ イノベーションサマースクールを開催 ・ 国内外のイノベーション事例の調査・研究を実施 ・ データベースの見直し <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生受入数（内部+外部）：9 名程度 ・ 修了者数：6 名程度 ・ 履修生学会発表数（IMPP が支援したもの）：計 15 回 ・ 実務者による講義数：5 回 ・ IMPP コース外からの講義受講者数：30 名 ・ イノベーションフォーラムの開催 ・ 国内外のイノベーション事例調査の実施 ・ 若手研究者（ポスドク）を含む IMPP 関係者による「政策の科学」に資する機関へのポスト獲得 ・ <p>(2) 研究・基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イノベーション研究センター所属の教員および（IMPP 若手研究者を含む）研究者による科学技術イノベーションに関する研究の実施。 ・ IMPP 受講生による、SciREX や IMPP に適した研究テーマの研究・論文執筆／教員達による IMPP 受講生への研究・論文指導。 ・ IMPP 受講生による査読付き学会論文への積極的な投稿／受講生の学会査読論文投稿への支援。 <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 履修生学会発表数（IMPP が支援したもの）：計 15 回 ・ 修了論文数：12 報 ・ 学会雑誌に掲載された論文数（IMPP 受講生のみ）：2 報 ・ 学会雑誌に掲載された論文数（教育側）：3 報 ・ 学術論文・学術誌の受賞（教育側含む）

		<p>(3) 共進化</p> <ul style="list-style-type: none"> 共進化実現プロジェクトの成果をポリシープロポーザル、学術論文等として発信する。 政府の研究会・研修での講師を務める。 地方自治体、政府関係機関の審議会、委員会に参画する。 行政官、産業界関係者との間で政策に係る学術論文の共著を行う。 <p>【KPI】 ポリシープロポーザル：1件 政府研究会・研修講師：3回 地方自治体、政府関係機関への関与：3回 政策研究に係る学術論文：4報（共進化2報、行政官との共著1報、産学連携1報）</p> <p>(4) ネットワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> IMPP 1年生は、SciREX サマーキャンプへの参加を必須とする。 SciREX 主催のオープンフォーラムに参加し、IMPP 教員は、企画セッションでの講義等に積極的に係わるとともに、学生には、SciREX 主催のイベントへの積極的参加を促していく。 IMPP 実施科目において、他拠点教員をゲスト講師として迎える。 OB 会のイベント（講演会・親睦会等）を企画・運営する。 <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> SciREX サマーキャンプ参加者：学生 8 名 教職員 6 名 オープンフォーラムでの企画セッション講師：1 回 他拠点教員による講義：1 回 OB 会のイベント：1 回
R6-7 年度	年度計画	<p>(1) 人材育成</p> <p>定常的な活動に加え、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 若手研究者による研究・論文指導の充実、セミナーなどの実施 学生や修了生が国内外の研究者と交流する機会を提供するため、イノベーションサマースクールを開催 IMPP の研究・教育に携わる教員達における国内外のイノベーション事例の調査・研究の実施

		<p>(2) 研究・基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イノベーション研究センター所属の教員および (IMPP 若手研究者を含む) 研究者による科学技術イノベーションに関する研究の実施。 ・ IMPP 受講生による、SciREX や IMPP に適した研究テーマの研究・論文執筆/教員達による IMPP 受講生への研究・論文指導。IMPP 受講生による査読付き学会論文への積極的な投稿/受講生の学会査読論文投稿への支援。 <p>(3) 共進化</p> <p>過去の共進化プロジェクトに関するフォローアップを継続しつつ、第3期以降の共進化プロジェクトについては、その内容に応じて、IMPP として主体的に、または関係研究者がそれぞれ支援する形で他大学主体プロジェクトに参加することを検討する。</p> <p>(4) ネットワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IMPP 1 年生は、SciREX サマーキャンプへの参加を必須とする。 ・ SciREX 主催のオープンフォーラムに参加し、IMPP 教員は、企画セッションでの講義等に積極的に係わるとともに、学生には、SciREX 主催のイベントへの積極的参加を促していく。 ・ IMPP 実施科目において、他拠点教員をゲスト講師として迎える。 ・ OB 会のイベント (講演会・親睦会等) を企画・運営する。
達成目標		<p>(1) 人材育成</p> <p>定常的な活動に加え、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若手研究者による研究・論文指導の充実、セミナーなどの実施。 ・ イノベーションサマースクールを開催。 ・ 国内外のイノベーション事例の調査・研究を実施。 <p>【KPI】 (各年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生受入数 (内部+外部) : 9 名程度 ・ 修了者数 : 6 名程度 ・ 履修生学会発表数 (IMPP が支援したもの) : 計 15 回 ・ 実務者による講義数 : 5 回 ・ IMPP コース外からの講義受講者数 : 30 名 ・ イノベーションフォーラムの開催 ・ 国内外のイノベーション事例調査の実施 ・ 若手研究者 (ポスドク) を含む IMPP 関係者による「政策の科学」に資する機関へのポスト獲得

	<p>(2) 研究・基盤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イノベーション研究センター所属の教員および (IMPP 若手研究者を含む) 研究者による科学技術イノベーションに関する研究の実施。 ・ IMPP 受講生による、SciREX や IMPP に適した研究テーマの研究・論文執筆/教員達による IMPP 受講生への研究・論文指導。 ・ IMPP 受講生による査読付き学会論文への積極的な投稿/受講生の学会査読論文投稿への支援。 <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 履修生学会発表数 (IMPP が支援したもの): 計 15 回 ・ 修了論文数: 12 報 ・ 学会雑誌に掲載された論文数 (IMPP 受講生のみ): 2 報 ・ 学会雑誌に掲載された論文数 (教育側): 3 報 ・ 学術論文・学術誌の受賞 (教育側含む) <p>(3) 共進化</p> <p>過去の共進化プロジェクトに関するフォローアップを継続しつつ、第3期以降の共進化プロジェクトについては、その内容に応じて、IMPP として主体的に、または関係研究者がそれぞれ支援する形で他大学主体プロジェクトに参加することを検討する。</p> <p>(4) ネットワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IMPP 1 年生は、SciREX サマーキャンプへの参加を必須とする。 ・ SciREX 主催のオープンフォーラムに参加し、IMPP 教員は、企画セッションでの講義等に積極的に係わりとともに、学生には、SciREX 主催のイベントへの積極的参加を促していく。 ・ IMPP 実施科目において、他拠点教員をゲスト講師として迎える。 ・ OB 会のイベント (講演会・親睦会等) を企画・運営する。 <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SciREX サマーキャンプ参加者: 学生 8 名 教職員 6 名 ・ オープンフォーラムでの企画セッション講師: 1 回 ・ 他拠点教員による講義: 1 回 ・ OB 会のイベント: 1 回
--	--

8. 平成 23 年度構想調書方針からの目標の修正・追加等

--